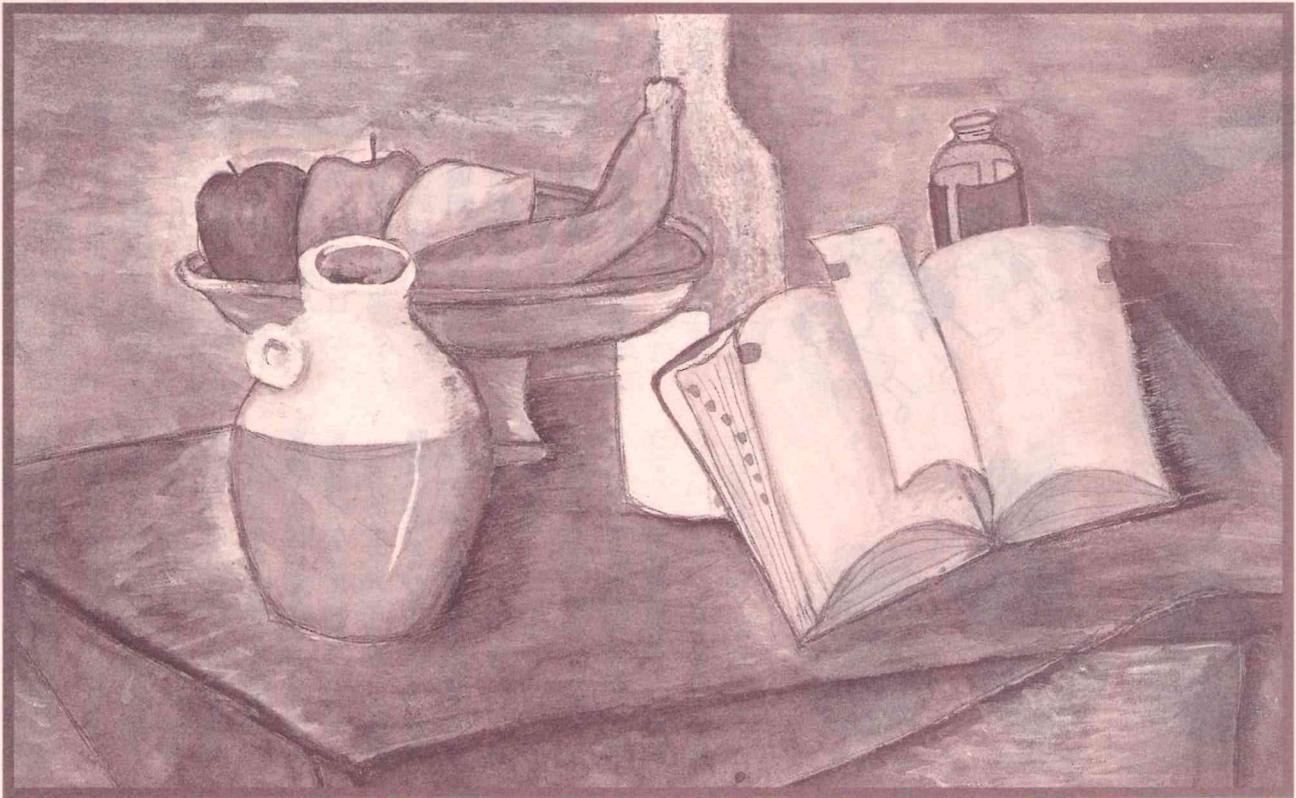


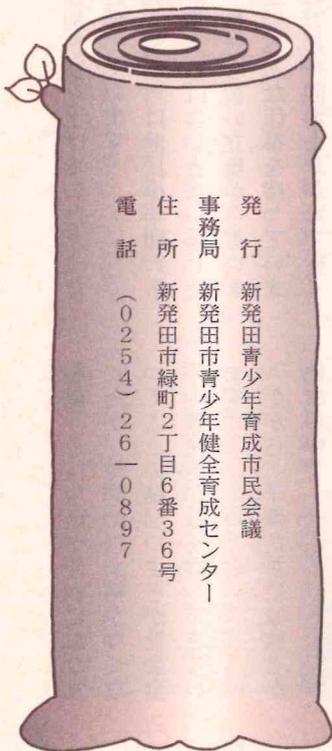
新発田青少年育成市民会議だより

はばたき

21世紀に向かって市民みんなで手をたずさえて



七葉中学校二年 松田 千恵美



発行 新発田青少年育成市民会議
 事務局 新発田市青少年健全育成センター
 住所 新発田市緑町2丁目6番36号
 電話 (0254) 26-0897

うちのお母さん

五十公野小学校2年
 齋藤 亜美



あのね。
 みんなきいて。
 うちのお母さんはね、
 しゅくだいをしないと
 すぐおこるんだよ。

あのね。
 みんなきいて。
 うちのお母さんはね、
 テレビゲームばっかりし
 ていると
 おこるんだよ。

あのね。
 みんなきいて。
 うちのお母さんはね、
 □ごたえすると
 ゲンコツがとんでくるん
 だよ。

ねえ、ねえ、あのね。
 うちのお母さん
 こわいんだよ。

座談会出席者

服部 町子	佐々木小学校教頭
萩野 喜弘	本丸中学校 生徒指導主事
石井美代子	川東中学校PTA副会長
西澤 正子	健民少年団城北大手隊隊長
木伏 文雄	加治地区まちづくりを すすめる会会長
山本 卓臣	新発田高校 二年
五十嵐香菜	東中学校 三年
荒川 大靖	猿橋中学校 一年
水戸部望広	二葉小学校 五年
越田 祥子	二葉小学校 四年
コーディネーター 小倉 和雄	(青少年育成市民会議副会長)

休みをどう過ごすか

コーディネーター 二〇〇二年から学校は完全に週二日休みとなります。

ところで、生徒のみなさんにお聞きしますが、休みが増えたらどのようにして過ごしたいですか。

水戸部 僕は週五日制になったら本を読んだりテレビを見たりしてみたいです。

荒川 僕は健民少年団の活動にジュニアリーダーとして参加しています。学校にはない自然の中で活動や小学生団員を指導するなどの体験ができます。だ

から、健民少年団の活動が増えればよいと思います。

コーディネーター ありがとうございます。今日は、第二週と第四週が休みですが、その時はどのようにして過ごしていますか。

越田 私は「かたた公園」で遊んでいます。

五十嵐 私は主にテレビを見たり本

を読んだりしています。山本 遊びに行ったり部活をしたりして、それに書道をちよつと習っているので行ったりしています。

近くに合宿施設が欲しい

コーディネーター それでは、子供さんたちのお話を聞いて、大人のみなさんはそれぞれの立場から、何か思い浮かぶことがありますらお話しください。

木伏 子供さんたちのお話は大変勉強になりました。

自分の生まれ育つたふる里の歴史の主なものを、いくつかお聞きして知っていただきたいと思っています。

もう一つは、社会の一員として、その年齢や能力に応じてボランティア活動をやっていたきたい。また、自分の町内の運動会などのイベントにできるだ

け参加し盛り上げていただきたいと願っています。

西沢 荒川君は健民少年団の活動が増えればよいと言いましたが、私たち親の立場から言いますと、みんな仕事を持っていくので月一回泊まりがけで行くのもやつと出ているんですよ。

市内に合宿のできる施設がないので乙の自然の家とかあちこちにできたキャンプ場に行っています。

市内の滝谷キャンプ場にも行っています。予約制でなく、一般の家族利用が多いために団体では利用しにくい状態です。

合宿のできる施設が近くにあれば、大人も昼出れる人と夜出れる人とが交代でやれるのです。合宿のできる施設を作るなど行政のバックアップも必要だと思っています。

コーディネーター 今のは大変大事な話だと思えます。子供の受け皿として、人も勿論ですが、施設も大切なわけですので、行政に対してこのような要望を出していかなければならないと思います。

服部教頭先生から学校の立場でお話いただきたいのですが。

家族や地域の中で

服部 今は生活が便利になりましたが、時間的な余裕がなくなつて人との結びつきとか社会全体の連帯感がなくなつてきています。

だから、子供たちに家族とか地域の中で自分の生活を豊かにするような過ごし方をしつて欲しいと思つています。

一つは祭りなどの地域行事に参加して欲しいということです。それに参加する事によつて年の違う人とか地域のひととかとの関わりが出てきます。

二つ目は家族が一緒に顔を揃える時間を持つて欲しいということ



です。お手伝いをするこ
つて生活する力を身につけて
欲しいと思います。お家の人
と仕事をするときにお話する
と自然な形で気持ちが分か
り合える気がします。

三つ目は、趣味とか自分の
好きなこと、興味関心のある
ことにじっくり取り組んで欲
しいと思います。小さいとき
にやったことは、大人にな
ってもずっと続くように思
います。

四つ目はおじいちゃん、お
ばあちゃんと一緒に過ごして
欲しいと思います。おじい
ちゃん、おばあちゃんは生活
の知恵というか、昔から伝
わっている言い伝えなど、
たくさん知っています。よい
お話が聞けるのではない
かと思います。

自分の生まれたところを大
にし誇りに思う人になって
欲しい。そのため地域の中
にどんな人が入って欲しい
と思います。

子供の発達段階に配慮を

コーディネーター P.T.A、母
親の立場で石井さんお願
いします。

石井 車野小学校、竹俣小
学校では、第二、第四土曜
日におじいちゃん、おばあ
ちゃん方が指

2002年を 学校週5日制完



導してゲートポールの練習を
しています。

中学生にもやってもらいた
いのですが、部活や勉強で周
りがやらなくなるものです
から誰も参加していません。

一つ質問したいのですが、
休みの土曜日は、閉庁日とい
うことで今は部活がやられ
ていません。完全週5日制に
なつた場合には、全ての土
曜日に部活ができなくなる
のでしょうか。

コーディネーター 土曜日に
部活が全くできなくなるか
どうかというところは、休
みの受け皿を考えると親御
さんにとつても大きな問題
だと思います。今後の大き
な課題ですね。

萩野 中学生の立場から話
をさせていただきます。地域
で行事



五十嵐さん



水戸部さん



越田さん



萩野さん



服部さん



西澤さん

自分たちでやれば各学校の
体育祭や合唱コンクールの
ように盛り上がりを見せる
力を持っています。それを
発揮させる場面や場所を
作ってやるのが大人の役
目ではないでしょうか。

中学生の中には楽器を演
奏したいという者もたく
さんいます。やりたいけれ
どどこでやればよいか分
からない。公共の場所では
大人の判こがないと使わ
せてくれない。しかし、大
人の手では借りたくない。
そういつたことで、中・高
校生は集まる場所がない
のだと思います。

中・高校生の方でも、集
まるというんな悪さをし
てしまうような問題もあ
るでしょうが、その点最
小限のルールを守ること
な形にしていながら公共
施設や場所を開放して
いく姿勢も大切なのでは
ないでしょうか。

楽しい休みを過ごすには

コーディネーター ありが
うございました。

週5日制が完全実施にな
ると時間がたくさんでき
るんですが、楽しい休み
を過ごすために地域で活
動している人たちに、
こんな行事、こんな施設
を作つて欲しいというよ
うなことがあつたら話
してください。

山本 がんばる行事もよ
いのですが、遊んだりする
のを多くして、楽しく
自分から参加したくなる
ような行事を作つて欲
しいと思います。

施設でもプールのよ
うな遊ぶ要素のある施設
が他と比べて少ないよ
うに思います。いろんな
人と遊べて人間関係を作
つていける所が欲しい
と思います。

荒川 「家でテレビゲー
ムばかりしないで外で遊
んでほしい。」と言われ
ますが、小さい子は公園
のブランコなどで遊ん
でいるけど僕たちはブラン
コで楽しめる年齢でも
ないので、何でもできる
ただ広いだけの広場が
欲しいと思います。

コーディネーター 時間
がきましたので、これで
終わりにしたいと思います。

世の中がいろいろ変化
していく中で、私たち
はどう生きればよいのか
。子供たちをどう育て
ればよいのか。こんな
ことを考えながら、そ
れぞれの立場でみんな
で力を合わせていく。
そういう意味で、みな
さんからお集まりいた
だきました。貴重なご
意見をいただき、本
当にありがとうございました。

青少年育成を願って 今年度のとりにくみから

青少年育成指導者研修会（平成十二年二月十五日）

学校で子どもたちとどう向き合うか 残ったのは信頼



講師 渡辺 顕
（荒川町立荒川中学校教頭）

学校は生き残れるのか。まず、学校、教師がどうして必要なのかをはつきりと認識しなければならぬ。子供たちが荒れたり学級崩壊が起きたりしている。なぜそうなるのか、それははつきりさせるためには大工さんが木に手を入れるときにまず木を見るように、生徒を見なければならぬ。

子供が教員に向けてくる欲求が変化したとしか私には考えられない。子供が先生を攻撃してくる。そこに隠れているのは、無条件の受容をして欲しいという子供の願いである。「茶髪を直してこい。」というのは条件付き受容であり、もともと学校は条件付き受容を前提としている。だが、これでは今の子供は反発してくる。

なぜ、子供たちは無条件の受容を求めようになつたのか。無条件の受容がないと子供は育たない。一番大切なのは母親の無条件の受容である。子供はしっかりと抱いて欲しいという段階から、母親の近くで遊ぶようになる。

次の段階になると親から離れて遊ぶようになる。しかし、時々母親のいることを確認するため戻ってくる。これはエネルギーを貰うためである。車はガソリンスタンドでエネルギーを積み、それがなくなるとまたガソリンスタンドに戻る。これと同じである。子供は外社会で傷つくと母親によって癒される。ところが、家庭が無条件の受容をできなくなっている。将来に対する不安から親が子供を急ぎ立てている。子供が外社会でいかに傷ついているかに気持ちがいけない。

問題は親が条件付き受容をするようになったことだ。「立つてご飯を食べるのはうちの子でない。」というように条件付き受容をしている。テストでよい点を採らないと親は喜ばない。見捨てられる不安を解消するために子供は努力する。努力して結果が出ればよいが、そうならないとき、不安はだんだん大きくなる。それが怒りとなり破壊が攻撃によってエネルギーを解消する。もしくは無気力になつていく。

塾の先生と違って学校の担任は逃げるわけにはいかない。子供は「こんな俺でも受け入れてくれるか。」と教師を試しに来る。それが「荒れ」である。これは教師に助けを求めているのである。

学校がやらなければならないのは、生徒を「わかろう」とすることであり、生徒との信頼関係を築くことである。子供の生きようとする意欲、親を喜ばせたいという欲求、それがうまくいつている子供とそうでない子供がある。子供が自分なりの生きていく課題を見つけ、それを超えていくために、教師は援助者になる、それしかできない。

家庭が子供を育てるのに条件付き受容で躍起になり無条件の受容をやらなくなつた現状の中で、学校は失われた家庭の役割を教師の最も重要な基本として引き受け、その上に立つて学校しかできないことをする。仲間としての継続的体験などは今学校しかできなくなっている。そこにこれからの学校の生きる道がある。

（広報委員 渋谷武雄）

近隣市町村民会議
二市・北蒲「青少年
育成市町村民会議」
合同懇談会
（平成十二年二月十日）

二市北蒲青少年育成市町村民会議の第二回懇談会が、二月十日新発田市で開催されました。

今回は、今後の活動を具体的に進めるうえから、正式に「二市・北蒲青少年育成市町村民会議連絡協議会」を結成し、地区青少年の健全育成に向けて一層の連携強化を図ることに決定いたしました。会の役員構成については、構成市町村をブロック（北部、南部）単位に二年毎に交替制とし、事務局については、地理的な面からも当分の間、新発田市に置くことで了承されました。

各市町村民会議の活動について今後は、さらに会の充実、強化に向け取り組んで行くことを確認し合いました。



有効に使われた特別活動助成金(第2回)



平成11・12年度、地域育成協議会の活性化を図るため、地域青少年育成組織に各5万円の配分が予算化されました。昨年度は4地域の活動を報告しましたが、今回は第2回目として、3地域のようすを報告させていただきます。



大人の指導力が問われる昨今、先般西園保育園に於いて親子三世代交流の集いを開催、約百五十名の参加をいただきました。お年寄、両親、子どもが一緒になって昔の遊びを楽しみました。また、遊具作り指導に民生委員、老人クラブとまさに地域ぐるみの交流で、トップに優秀標語報賞が五名の中学生に渡されました。

猿橋小学校区



御免町小学校区

最近、高校生の歩行喫煙には目に余るものがあり、大人も相手が一人でないため、怖くて見ぬ振りをします。精神的にも肉体的にも成長期にある子どもたちのことを考えた時、こんなことで良いのだろうか、という相談がありました。

この区域には小・中、そして二つの高校があり、前述のような実態を少しでも改善したいと考え、地域の皆さんの協力を得るために未成年者の防煙運動を三つの計画で実施することにしました。

- 一、七区コミュニティの協力で「あしたの七区を語る会」の議題として話し合う(二月二十日)
- 二、意見の集約等をふまえて実践の協力をする(新学期)
- 三、実践結果の報告をする

この実践が、青少年の健全育成の一助となれば幸いです。(浮島一雄)



川東小学校区

川東地区青少年健全育成協議会では、あいさつ運動や講演会等の行事を毎年行っていますが、予算の関係上、なかなか他のことができませんでした。

この度、特別活動助成金をいただけるということで、育成協では親子の野球大会をやったかどうかということになり、十一月十三日(土)に大天城公園にて、大人二十八名、子供三十名の参加により野球大会を行いました。

当日は天候にも恵まれ、子供達の野球教室のあと、親子に別れて学区対抗の試合を行い、その後豚汁で舌つづみを打ち秋を満喫しました。

地域活動をするにあたっては、いろいろなものがありますが、今回野球大会を通して、親子と一緒に活動できたことが良かったと思います。(斉藤正明)



楽しいカラフルなシンボルタワー完成!

前号でお知らせいたしましたがJA北越後の新発田地域ふれあい市の皆さんの寄付で育成センターのシンボルタワーが完成いたしました。ありがとうございました。

もり上がったね、楽しかったね、センターの秋祭り

秋晴れに恵まれたセンターまつり当日、約六百人の参加者で賑わいました。今回は、中・高校生のボランティアによる活躍で、一層の華やかさと楽しい雰囲気をかもし出し、笑顔満開でした。



楽しかったアートバルーン

ふうせんでいろいろなものができました。子ども達の長い列ができ、中・高校生のボランティアさんは大忙しでした！

飛び入り大歓迎

楽しいキャラクターに誘われて教育長もつい飛び入り。とっても楽しそうですね。



桑名シオンさんのコンサート

近隣市町村のとりくみから

青少年育成豊浦町民会議

主な活動

- ・ 広域対策事業の充実
- ・ 広報及び啓発活動
- ・ 環境浄化活動
- ・ 町内小中学校共催の研修及び講演
- ・ 青少年育成のための教室・講座開設

この中から平成十年度に行った青少年育成のための教室・講座を紹介します。

ジュニアリーダー研修会

(小学五年生)

子ども会のリーダーを養成するための研修で年四回のうち一回は宿泊研修会です。

少年少女リーダー研修「やまびこキャンプ」

(小学五・六年生)

年三回の宿泊研修会で、中・高校生もボランティアリーダーとして参加しています。

「親子ファミリースクール」(小学生とその家族)

小中学校交流事業「スノーパラダイス99」

(小学六年生・中学一・二年生)

磐梯国際スキー場で来年度中学生となる六年生が上級生とスキーを楽しみました。

全国とようら町子ども交流会

北海道豊浦町、山口県豊浦町、当県豊浦町の子どもたち総勢六十八名が参加し、四日間を共に過ごし交流を深めました。

世代間交流ゲートボール大会

子どもからお年寄りまで十九チーム二百二十名が参加し、盛り上がりました。

小学校親善球技大会

町内の四小学校より十五チーム二百四十名が参加し、日頃の練習成果を競い合い、交流の輪を広げました。

おわりに

春は名のみので…寒い日が続きましたが、大地は忘れることなく春のぬくもりを育んでいるようです。

青少年にかかわる心痛む事件が頻発する中、ほのぼのとしたニュースが耳に入ってきました。昨年三月の私達のおたよりの表紙に掲載したひとつの詩があります。それは住吉小学校三年生の中村香央里さんの「つららの家族」です。住吉小学校ではこの詩に曲をつけていただき、全校朝会等で歌われているとのこと。とても心温まる嬉しいことです。

取り組みがこういう形で活かされることが、私達の願いであり、喜びです。今後、市民の皆さんと共に多くの喜びを共有したいと思う今日この頃です。 文責 山野辺

こちら編集部

子雄子子子子
輝武文イ幸裕
辺 ち
野谷橋 藤津
山洪高近斉嶋